

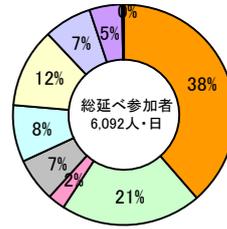
『スマート通勤おかやま2009』 実施結果(10月26日～30日実施)

●全体の参加状況

参加企業数	140社
参加登録者数	2399人

140の事業所、2,399人の方が本取り組みに参加されました。

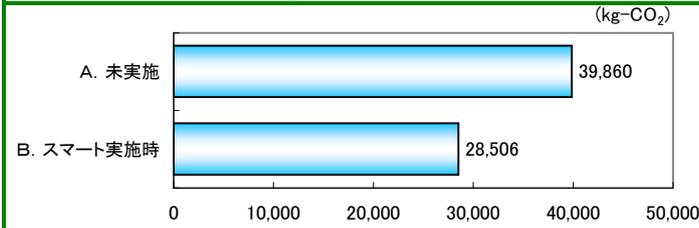
●変容交通手段の状況



- 自転車
- 時差出勤
- 自動車(マイカー)
- バス
- 自動車相乗り
- 徒歩
- 鉄道
- バイク
- 路面電車

自動車からの変容手段として、自転車への転換が約38%を占める。

●全体の期間中の「CO₂」削減量と削減率



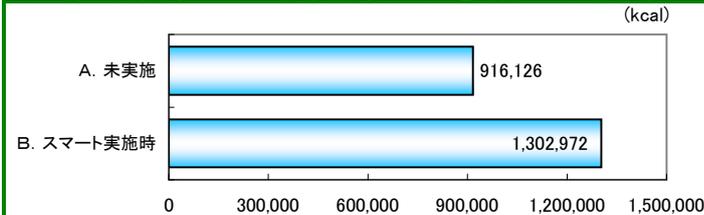
C.削減量(A-B)	11,355 kg-CO ₂
D.削減率(C/A)	28.5 %

(1人当たり約5kg-CO₂)

約11.4t-CO₂は、約800本のスギの木が1年間に吸収するCO₂吸収量に相当するものです。

※スギの木は、樹齢50年程度のもを想定。杉の木1本が1年間に約14kg≪出典：「地球温暖化のための緑の吸収源対策」環境省林野庁≫の二酸化炭素を吸収するとして試算。

●全体の期間中の「通勤時消費カロリー」増加量と増加率

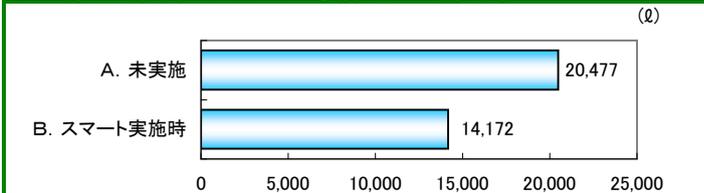


C.増加量(B-A)	386,846 kcal
D.増加率(C/A)	42.2 %

(1人当たり約160kcal)

約160kcalは、ジョギングを約20分間実施した場合の消費エネルギーに相当するものです。

●全体の期間中の「ガソリン」削減量と削減率



C.削減量(A-B)	6,305 L
D.削減率(C/A)	30.8 %

(1人当たり約2.6L)

備考)「A.未実施」は、参加者のみなさんが通勤時に全てマイカーを利用した場合の数値です。
 CO₂排出量:「平成14年度国土交通白書」、「平成17年度全国道路交通センサス 一般交通量調査」(国土交通省)
 カロリー消費量:第6次改定日本人の栄養所要量(厚生労働省)
 (※カロリー消費量は、年齢42.5歳(岡山県平均)、体重を男性65kg・女性を55kgとして平均して計算しています。)
 燃料消費量:「メーカー公表車種別燃料消費率」、「平成17年度全国道路交通センサス 一般交通量調査」(国土交通省)

【本取り組みに参加された方の声】

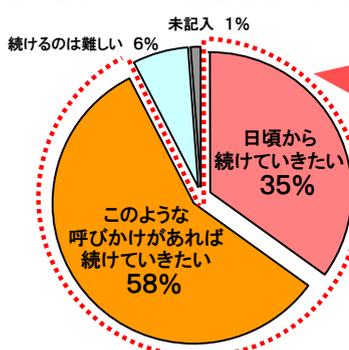
●取り組みに参加してよかったこと

- ・歩く時間が増え良い運動になった。体重が減った。
- ・環境をさらに意識することができるようになった。
- ・通勤時間が短くなった。時間に余裕ができて午前中の仕事に余裕が持てた。
- ・公共交通機関で、同じ地域から通う職員と出会い初めて話をしたなど、交流ができた。
- ・普段とは移動手段が変わることで見える景色が違った。気分転換できよかった。
- ・時間に余裕を持って自転車、徒歩通勤することで、ふだん気づかない街中の風景、お店に気づくことがあった。

●スマート通勤を続ける上での改善点・課題

- ・公共交通機関の充実。公共交通体系を根本から考え直す必要がある。
- ・自転車が走りやすい道路整備。自転車専用道路の整備。
- ・熱心に取り組んでいる企業の支援制度(表彰など)

■今後も「スマート通勤」を続けていきたいと思いませんか？



9割以上が『今後もスマート通勤を続けていきたいと思う』と回答

回答：94社